

謹 賀



コロナ禍を乗り越え、街に活気を取り戻す

五所川原市長 佐々木 孝昌

新 年



共に支え合う地域社会の実現を目指して

五所川原市議会議員 磯邊 勇司

明 けましておめでとうございます。市民の皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでに経験したことのない困難に見舞われることとなりました。一方で、このコロナ禍の中で実施された「五所川原エール飯」や「やっつまれ！ごしょがわらGENKIまつり」、そして市浦牛井が好評を博した「十三湖高原まつり」など、疲弊した地域に活気と呼び込み、街に賑わいを取り戻す契機となるものであり、若い世代が五所川原を元気にしようと奮闘する姿は、非常に頼もしく感じるものでありました。

本年、市では、感染防止対策を継続しながら、市民の皆様への安全・安心な生活を確保し、街に再び活気を取り戻すことができるよう、各種施策の推進に取り組んでまいりますので、市民の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○幅広い世代へ、真に必要とされる支援を

まず、子育て支援施策については、昨年8月から子どもの医療費を中学生まで完全無償化し、同年10月からは学校給食の完全無償化を実現することで子育て世代の経済的負担を軽減しており、引き続き子育てしやすいと実感できる環境づくりを進めてまいります。

学校教育においては、市内の全小中学校に空調設備を整備するとともに、GIGAスクール構想実現のため、ICT教育をさらに推進し、コロナ対策と学習環境の向上を図ってまいります。

また、自粛生活の長期化に伴い、高齢者が健康を害

することや、社会的に孤立することがないよう、コロナ禍の中にあっても、人との交流を保ち、活発に地域社会での生活が送れるよう支援し、健康長寿社会の実現のため、取り組んでまいります。

○地域活性化の仕組みづくり

次に、経済対策については、これまで続けてきた台湾との交流や、民間事業者による商品開発など、官民連携による産業振興を推し進め、基幹産業である第1次産業をはじめ、地域経済のさらなる活性化に取り組むとともに、地元高校生など若い世代の活躍の場を作り、地域を担う若者を支援してまいります。

また、本年5月には、新金木庁舎が開庁いたします。金木地域にお住まいの方の生活に密着したより身近で使いやすい庁舎として、地域行政の拠点機能、防災機能の強化を図るとともに、金木観光物産館のリニューアルと合わせ、新たな金木地域の顔として整備することで、地域の活性化につなげてまいります。

結びに

本年の干支である「丑」の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。依然として予断を許さない新型コロナウイルス感染症ですが、市では、市民の皆様の声に耳を傾け、必要とされる支援を進めてまいります。このような困難な状況にある時こそ、しっかりと地歩を固め、やがては新たな発展へと繋がる礎となりますことを切に願うとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを心よりご祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

新 年おめでとうございます。五所川原市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつ申し上げます。

昨年を振り返りますと、白血病による闘病から競技大会へ復帰した池江璃花子選手、全米テニス女子シングルスで、2年ぶりに優勝を果たした大坂なおみ選手、17歳11か月と史上最年少でタイトルを獲得した将棋の藤井聡太七段など、明るい話題もありましたが、1月に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルスは、あっという間に猛威を振るい、医療、福祉、経済、雇用などに加え、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の延期など、その影響は多方面に及んでおります。

私たちの生活においても、緊急事態宣言下での不要不急の外出の自粛や当市最大の夏祭りである「五所川原立佞武多」の運行中止など、地域コミュニティ活動の停滞や経済にも暗い影を落とすこととなりました。

○自然災害への備えを

また、当市には幸い大きな被害がなかったものの、九州地方を襲った昨年の台風や大雨により、避難所では新型コロナウイルス感染予防のため、密閉、密集、密接のいわゆる「三密」を避け、収容人数を制限するなどの取り組みが必要となるなど、従来の危機管理体制を大きく見直すことが重要であることを痛感した1年でもありました。

本年は地震による大津波や火災等により、死傷者と行方不明者が2万人を超える甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から10年の節目の年であり、改めて災害時の避難行動の確認など、いつ発生してもおか

しくない自然災害への備えを忘れないようにしたいものであります。

○共に支え合う地域を目指して

さて、わが国は人口減少や少子高齢化の進行により、地域、家庭、職場といった支え合いの基盤も弱まってきており、人と人とのつながりが失われることで、生活の質は低下してまいりますから、老若男女を問わず、活力を持って地域社会に参加できる方々を増やし「誰一人取り残さない」地域共生社会の実現に向けて取り組む必要があります。

新型コロナウイルスの取束がなかなか見通せない状況の中、地域の力を高めるため、行政と市民の皆様が一丸となって、共に支え合い「新しい生活様式」に沿いながらも、つながりを絶やさず、困難に負けない地域を作っていかなければなりません。

結びに

市議会といたしましても、様々な課題に対応していくため、市民の皆様の声を市政に届けることができるよう邁進して参る所存でありますので、引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして幸多く実り多き年となりますことを心よりご祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

